

会議名		令和元年度公民館運営審議会(第2回)		
事務局		生涯学習課座間市公民館		
開催日時		令和元年9月18日(水) 午前10時～12時00分		
開催場所		座間市役所5階教育委員会室		
出席者	委員	12名	その他	0名
	事務局	3名	傍聴者数	0名
公開の可否		可		
内容		<p>出席委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座間市公民館 稲垣文野委員長、吉泉幸子委員、柳下洋昌委員、佐藤委員 西川委員 ・北地区文化センター 木村由紀子副委員長、赤木みな子委員、中澤孝子委員、 ・東地区文化センター 松岡たみ子委員、飯田由美委員、佐々木邦彦委員、倉田委員 (全12名) <p>事務局 座間市公民館 山頭館長、 北地区文化センター清水館長 東地区文化センター岡田館長</p> <p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 稲垣委員長あいさつ 2. 第41回公民館研究集会・第59回関東甲信越静公民館研究大会栃木大会参加報告・意見交換 3. 事業評価 令和元年度事業評価について 4. 協議事項 来年度の第42回全国公民館研究集会・第60回関東甲信越静研究大会千葉大会について 5. その他 連絡事項 <p>委員長 8月22日～23日開催されました第41回全国公民館研究集会・第59回関東甲信越静研究大会の参加者から報告をして意見交換をしたいと思います。第1日目が全体会ということで、まずは基調講演について報告をお願いします。</p> <p>委員 基調講演は学校法人文教大学学園理事長である野島正也先生です。タイトルは「地域課題解決学習から地域創生へ」です。先生が子供の頃は近所付き合い、夏まつり、運動会など地域挙げてのイベントが、今は殆どない。今はひとり主義の風潮があり、ひとりカラオケ、ひとり焼肉等。</p>		

果たしてひとは地域で幸せ(仕合せ)になれるだろうか。このしあわせの字、昔は仕合せという字が使われていた。これは様々なことが重なり合って物事が成り立っていくという意味で先生は多くの人と一緒に何かをやるという意味だと話されていました。そして次に地域コミュニティという言葉について「地域」ではいけないのか、「コミュニティ」ではいけないのかということについて、デコレーションケーキを例に出されて地域がスポンジだったらコミュニティは生クリームだ。これでデコレーションケーキが出来上がるといことで地域とコミュニティというのはそういう関係があるという話でした。公民館は地域コミュニティのど真ん中。公民館は地域課題を解決するための学習の場、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター、地域の防災拠点という話でした。最後に地域創生に向けて基本は人と人のつながり、例えばお年寄りだけではなく、たくさんの人が「きょういく」(今日行く)の場である「きょうよう」(今日用がある)がある場であるといことで公民館はそういう場になってほしいと話されていた。これからの地域コミュニティは「好縁社会」(好み・関心でつながる社会)この好縁という言葉が良いと思ひ、好きなことで出会いが始まり、集い、互いを尊重し自分を高め、自分らしい生き方をするというセッティングが正に公民館であるとわかりやすく話してくださいました。

委員長 基調講演を受けて事例発表がありました。私の方から報告したいと思ひます。テーマが～地域コミュニティの形成を目指した公民館活動 人が変わりまちが変わる～「学びのカフェ物語」広島県大竹市玖波公民館主事の河内ひとみさんの事例発表でした。この方はこの活動を通して平成26年に文科省の優良公民館最優秀賞を受賞されました。基調講演された野島先生とも交流があるようでした。事業の目的は「ひと」が変われば「まち」が変わる！「まち」が輝く！ふるさとに眠っている宝物(歴史・文化・人材)を探し出そう！といことで活動が回っていきます。この玖波という地域は住民が減って公民館も錆れてきているような印象でお話をされていたのですが、そこから人のつながりを創ろうと「まちカフェ」という形で事業を始められました。最初は人が集まる場所として毎月1回の講座を開いてバージョンアップをし、最後は結構大きなイベントになったというお話しでした。この事業の成果と発展についてまとめてみたいと思ひます。住民同士の横のつながりを作るために居心地良くゆったりできる空間とした。月1回行うことを2年間続けて毎月テーマを変えて講座を行った。どんな講座かといと、地域課題とかタイムリーな題材をカフェの中から見つけて行い、地域定着型の講座となって受講者が段々と増えていったとのこと。受講者が地球人と書いたのですが、その字を人と置き換えて地域の人として地域の課題を話し合うという形に変わっていきます。その中でネットワークが広がり、地域課題への関心が高まり3年目でようやくPDCAという計画、実行、

評価、改善という動きが回り始めたと言っていました。取組例としては、テーマ「まちカフェレトロ体験」、レトロマップ、まちの中で古いものを見つけようというものです。あと「見知らんガイド」をミシュランとひっかけて地元の飲食店ガイドを作ったとか。すごかったのは、のぼり旗やテーブルクロスみたいに大きなクロスがあり、テーマソングとか、それを全部授業の中でやっているのですが、特殊事業に参加者が増加、最初は200人ちょっとだったのが平成28年には4,000人近くまでに増えたという報告がありました。ネットワーク構築団体も21団体に増えた。野島先生と事例発表を受けてトークセッションがあったのですが、その話し合いはなかなか拾えなかったがその後の質疑の中でこれだけの事業をやるお金はどうしているのかという質問があり、町からの事業予算は無いということで、地域の共催相手で行っているとのこと。相当な行動力だと思う。事業の運営の主体はその方職員一人で行っているため、地域のスタッフの方たちが日常的に協力していることで地域とうまく結びついた公民館の活動としては良い形なのかなあと印象を受けました。以上です。

第2分科会テーマ「壮年」について参加された方をお願いします。

事務局「壮年が参画する地域課題解決を通じた地域づくりへの取組について考える」という働き盛りの方が公民館に参加して活動してもらえるためにはどうしたらいいのかというための事例がありました。2つありまして、一つ目は山梨県富士川町大柵公民館主事 岡崎さんと生涯学習課の望月さんが発表されました。富士川町が人口15,000人に対して中央公民館1館、地区公民館15館あり、その中の地区公民館に位置付けられているのが大柵公民館なのですが、こちらの取組について発表されました。少子高齢化が進み、働き盛りの世代30～50歳代を壮年と定義付けして壮年が公民館を利用する人が少なく、どのように育成していくのかということです。公民館は高齢者が集うというイメージが強く、「敬老会」という名称を「いきいきサロン」に変えたら高齢者でない方にも参加してもらえるのではないかと名称を変えて幅広い世代間交流を行う事業活動を進めていった。が壮年の自主事業の継続性については「参加する時間がない」「関心がない」といった人が多く、交流事業を行うため、関心と興味を持ってもらえるシニア世代の人をバックアップという意味合いで「チームシニア」と称し壮年のサポーターに協力してもらい壮年の後押しをして事業参加を応援してもらうということで事業を進めていったとのことでした。チームシニアの取組によって地域行事の参加が年々増加している。最終計としては、壮年が中心となって自主的な活動が展開できる体制を作っていきたいとのことでした。公民館を使っているいろんなまつりごと、イベント、近くの小学校の校庭を使って市民レクリエーション的な感じの事業だとか年配の方がサポートして壮年の世代の方に参加してもらい、いろんな事業の発表がありました。

助言者の神奈川大学齋藤教授は若い世代を公民館に関心を持ってもらうという取組をシニア世代の協力を利用することはとても良い事例である。しかし、学校事業である運動会等のほかに壮年だけの継続事業を公民館で運営するのは難しい。例えば健康とか食を通じて単発的な事業を数多く行ってはどうか。あるいは情報発信だとかそういったものを利用し、たくさんの方に関心を持ってもらえれば壮年世代の参加が増えるのではないかという助言でした。もう一つの事例は宇都宮です。人口 51 万人、その大都市に対して生涯学習センターがあり、公民館施設と位置付けられています。18館あり、事例発表を行ったところは中央生涯学習センターで、中に「人材かがやきセンター」を設置し、人材育成事業のほか社会的課題など様々な講座を実施しています。働き盛り世代を対象とした早期教養講座「宮の朝活講座」の取組です。出勤前に行う講座になります。こちらは生涯学習課古谷さんと佐藤さんから発表がありました。この講座は学習意欲があるが日中は仕事で忙しい20代～40代を対象に学習の参加と参加者同士の交流を通じて地域で活躍する人材、宇都宮市は11万人というたくさんの活躍する人材が豊富でそういった方々を講師に招き、教養講座を行っているとのことでした。平成25年度から実施している事業で年に2回前期と後期で約4回のスパン、原則金曜日早朝5時30分から7時30分まで。後半は朝食を取りながら(各自で用意)意見交換をしています。その後仕事へ向かうという事業を始められたとのこと。前期は事務局である生涯学習課で企画し、後期は受講者の自主企画講座という形で行っている。40人程度募集しているが定員割れすることはなく、かなり好評な講座であると言っていました。この講座を通して地域の宇都宮について知ることができると好評。宇都宮の地域で活躍されている方の豊富な地域資源を活用した講座である一方、地域のまちづくりの担い手となるような機会の創出、自主的な活動や継続性といった次のステップまでにはなかなか実現できていない。それを今後どうしていきたいかという事例発表であった。工夫している点は原則ネット申し込みで事務の省力化をしています。座間市ではネット申し込みがフリーソフトを利用しているため、情報セキュリティの問題があります。もう一つは早朝から行っている点について「宮の朝活」を行っている職員は朝6時出勤で午後2時で退庁という時間差での対応を労使交渉して実施しているとのこと。事例発表の指導等助言ですが、若い世代交流を考えれば学校教育というものを考えたかどうか。例えば高校生ですが大学の入試が今後変わってくる動きがあり、その一つとして課題解決のレポートを出すといったことが始まる予定。そこで課題テーマとして地域資源を出す、高校生を巻き込んで壮年世代が高校生に助言をすることによって「次世代のつながり」が生まれるのではないか。という助言がありました。

委員長 それでは次の第3分科会をお願いします。

委員 第3分科会「子ども・若者」事例発表「ぼくらのまなびや公民館」地域と公民館における若鮎クラブの活動について“なすからすやま風の顔らんど”運営委員会4名の方から発表がありました。委員長はお坊さんであとの3人は若鮎クラブの卒業生です。若鮎クラブとは小学生1年から6年を対象に自然体験活動など様々な体験・交流活動を目的にしています。この事業は生涯学習課公民館グループが行っている事業で、飯ごうを使ったキャンプ体験や児童が自分で切符を買い、目的地まで行く見学活動、更に田植えや登山、学校で学べない体験活動を大切にしています。他校の子どもと遊んだり、異年齢の地元、スタッフとふれあう世代間交流の場という役割も若鮎クラブは担っています。“からすやま風の顔らんど”は若鮎クラブをサポートしているサークルで、あくまで子どもたちの主体性と積極性を育む機会を奪わないように支えています。那須からす山は平成17年3万人であった人口が現在2万6千人に減っている。少子高齢化が進んでおり、市内の小学生が減り、核家族化、近隣住民の希薄化、この那須からす山で「風の顔らんど」は何ができるか自問自答して若鮎クラブの活動をしています。若鮎クラブの鮎は育った川に戻るという意味で期待して「風の顔らんど」のスタッフは待っています。小学校で若鮎クラブを体験し、中学校、高校、大学そして社会人になってからもスタッフとしてクラブ活動を支え続けている。このような流れを確立するには、行政との連携と支援を欠くことはできない。那須からす山市は入学、就職を機に離れていく若者が多い。若鮎を経験した者が一人でも戻ってくることを願っている。これらの活動成果として、子どもたちが毎回楽しんで保護者からも感謝されることがスタッフの励みとなり、小学生の時に参加した若鮎クラブの一員が戻ってきている。課題としては現在20名の参加者を思うように増やせない。スタッフの数も不足していることだと言っていました。私が感じたことは、地域活動、昔は子ども会が参加できた年中行事で座間にもどんど焼きやドッチボール大会があったのですが、今は地域で大人と子どもと一緒に集まることが少なくなった。子どもは遊びを通して体験する。五感を通して体験することは大人になってからも自己査定が強い。体験だけでは活動につながらない。企画型体験、子どもの成長は大人が必要である。豊かな体験は地域から→子どもが元気→大人も元気。公民館は学校との窓口でもある。公民館は頼りある存在であるので心がけて元気にしたいと思いました。

委員長 第4分科会 学校・家庭・地域の連携 こちらは出席された方が多かったので代表でどなたかをお願いします。

委員 テーマ「地域の連携を深める公民館事業、フウリン草展」事例発表が埼玉県深谷市八基公民館館長、指導助言者が文科省国立教育研究所

志々田まなみさん。八基公民館は渋沢栄一翁の生誕地であり、公民館の中に記念館も併設されています。公民館の建物は24年前に建て替え、写真を見たら外観も洋風な感じで、立派な施設でした。深谷市は12の公民館があり自治会連合会と密接に連携をしているとのこと。体育祭や芸術祭の行事や渋沢翁を偲んで命日に「にぼうとう会」というのが開かれるそうで、そのために床はコンクリートで200人分の料理が作れる広い調理室が隣接されているのです。「にぼうとう」とは「ほうとう」のことで群馬の方は「にぼうとう」と言い、乾麺を入れて煮込んでいく煮込みうどんのような、山梨とはちょっと違った感じです。干してもなんでもいように、全域の方たちが集まって料理を行う、最初からそういうことを目的に建てられた施設です。八基公民館独自の事業もありその中の一つが「フウリン草展」です。なぜフウリン草なのか、フウリン草はとても栽培が難しく、過保護でも放任でも良い花は咲かない、それは子育てに似ている、そのことに着目してフウリン草を育ててみようと思ったとのこと。青少年健全育成事業として毎年5月下旬に開催し、35回行っています。今年は自治会や地域の方たちが育てた327鉢、八基小学校6年生が育てた33鉢、公民館が14鉢合計374鉢が出品され順位も付けられたそうで、年間スケジュールは展示が終わったらすぐ自治会長中心に種を蒔いて本葉が2～3枚になる7月下旬から8月にビニールポットに1本ずつ植え替えて協力してくれる地域に配布。各家庭で育てて更に菊鉢に植え替え支柱を立てて水を欠かさずやり、5月中旬から花が咲き始めるとのことです。小学生も5年生から育て始めてフウリン草展に出品する頃は6年生になっている。フウリン草の成果は公民館、自治会、学校等地域全体で取り組むことにより、地域連帯を深め、一体感を醸成する役割を果たしている。農家が多い八基地区は各家庭で数鉢のフウリン草を育てる場所や運搬する際の軽トラックなどの手段も不自由する事なく、フウリン草展は地域の特性を生かした事業である。が課題として最近農家の減少、児童数の減少など環境がかなり変化してきていて継続できるかの懸念も出てきているため、継続する努力が重要とっていました。助言者からは、地域の人たちの気持ちに合った建物を建てたことに驚いた。全国的に公共施設の建て替えの時期がきている。財源にもよるが複合施設としての建て替えになると思う。住民もきちんと使い方の要望を出していく必要がある。リスクもチャンスに変える良いチャンスであるとのことでした。地域の事業の取り組みも皆が関心を持っていることや既存の内容を継続していくことが難しくなっている。これからは健康づくり、防災、障害について等テーマごとに取り組んでいくことが望まれる。地域と学校の連携とは、学校で子どもたちが学んでいることを地域の人と一緒に学習する活動である。学校を支援するのではなく、一緒にやっていく方向で考えることが重要だと話していました。私の感想としては、公民館がイベ

ントに合わせた形で作られていたことは、地域の方たちの強い意志と住民同士のつながりを感じた。そういう環境があるため、35年間もフウリン草展が続けてこられたのだと思う。全体会の中で事例発表された他の公民館も小さなコミュニティの中の住民同士の絆の深さを感じたが、八基地域も同様の地域だと感じた。地域性は座間とは違うが、座間でも別の方法で地域と公民館が深く連携することが可能か考えさせられた。花に関していえば座間にはひまわりがある。ひまわりの花を全戸で咲かせることは可能ではないかと思う。以上です。

委員長 他に出席された方で追加される方いらっしゃいますか。

委員 発表された八基公民館は渋沢栄一さんが今度一万円札の肖像になるので今盛り上がっているそうです。私は第4分科会のもう一つの事例発表を報告します。栃木県日光市中央公民館、今市公民館館長の野口一徳さんの事例発表です。テーマは“地域の人財を小学校につなげたい！公民館として、できることからの模索と行動へ”です。こちらの公民館は複合施設となっていて主催教室、サークル支援、自治会長、体育協会、子ども会などの事務局業務などが入っています。今まで「ひと」と「ひと」のつながりが弱いところだったらしく公民館が地域と学校のつなぎ役として公民館のノウハウや人財を生かして学校、家庭、地域で子どもを育てる目的で事業を始めました。平成29年8月、夏休みサマースクールを開き、児童の宿題、流しそうめん、水遊びを30年度も行き、宿題である絵画、書道は公民館の高齢者講座の講師が担当し、受講生に見守り等協力してもらい、その作品を校内にて地域ギャラリーを開き、公民館主催教室の作品と児童の作品を1週間から10日間小学校のギャラリーで展示しました。ほかに小学校のクラブ活動の時間に体育協会のグラウンドゴルフ部の方々に協力してもらい、グラウンドゴルフを体験しました。成果として地域連携教員の先生と話す機会が増え、公民館の持つノウハウや公民館で学ぶ大人を学校のニーズに応じてコーディネートする一例ができたこと。日頃から公民館で学ぶ大人や高齢者の方々は、学んだことや得意なことを生かして児童と触れ合うことで、自己有用感の高まりを感じたこと。児童は興味関心を深め、教わり、褒められるなど大人とのコミュニケーションを通じて自己肯定感を高める機会となった。今後の課題は、大人の学びを自己完結させずに学校につなげる仕組みと、必要な時の協力体制のため、公民館職員が関わる多様な人々とのコミュニケーションを深め、ニーズにマッチングできる仕組みを作ることだと考える。まとめに「まなぶ」・「つどう」・「むすび」そして「仕掛ける」そういう発表がありました。座間でも校長先生の協力で学校といろいろなつながりがあります。公民館、北地区でも行っていると思うが東地区では、夏休みにサマーアイランドを行っていて、学校に協力してもらい、小学校4年生から高校生の子どもたちにボランティアを募り、子ども実

行委員会を作り実施しています。今年は中学生の男子が実行委員長を務め、小学生17名、中学生12名、高校生が2名集まり、当日のボランティアを含めると34名の子どもたちが参加して大成功に終わりました。あと、東地区のボランティア会として学校へ読み聞かせに行っています。昔遊びをボランティア会10名さがみ野小学校へ10種類の昔遊びを一緒に2時間行っています。これからも学校とのつながりを作っていきたい。以上です。

委員長 第5分科会は私が出席しました。地域文化伝承ということで、テーマ“地域の伝統文化・歴史資源を生かし、文化の継承と地域づくりのために公民館が果たす役割を考える”ということですが、地域文化というと例えばお祭りとか読み聞かせ、地域学ということが頭に浮かびますが、期待外れの内容だったというのが第一印象でした。2つの発表があり、両方とも食に関する内容で、進行の仕方は事例発表のあと、近い席の方とグループになり、意見交換をし、助言者の話を伺うという流れでした。一つ目の事例発表は上越市で、高齢化率が高く、人口も減少しているということで地域のつながりを作るための講座を目的として地域の伝統料理、しめ縄づくり、ワラ細工講座を行っている。世代間交流を通じて昔の生活を体験するために野菜の収穫時期【年取りという】その時期に合わせた伝統料理があり、紹介されたのが26年度は自然薯を使った芋汁会、翌年はやきもちづくり、次の年はぼたもち(牡丹餅)作り、平成29年・30年度は伝統料理体験(芋の年取り)芋の収穫時に行ったということで紹介がありました。農作業を終えた12月には、手伝ってくれた人たちへの振る舞う料理を再現したとのこと。食べきれない料理を持ち帰るのに、ワラ細工で作る(つとっこ)という容器があり、事業の中で作ったとのこと。他にも公民館の講座で牧村というところの発表があり、特産品を開発して自主的に活動するNPO法人のグループがあり、郷土料理に着目して冊子を作り全戸配布したとか、しめ縄は各家庭で集落ごとに作っていたが、材料の確保が難しくなったため、公民館の事業として行い、段々と人気となって、平成30年度には会場を増やしているとのこと。材料の確保が難しいため委託して作っているそうです。受講生はワラ細工で日用品を作り、商品化する活動をしている。子どもたちに向けての事業は牧地区なのでまきっ子という取組があり、野菜作りは大人の人と一緒にいき、ゲートボール、民謡、子どもの集い、読み聞かせ、文化展、まきっ子探検隊、街中探検、書初め展等行っているという報告でした。次の発表が長野県の上田市です。発酵食品ということで味噌作り、手前味噌を作ろうということで事業を行っています。味噌を作るための糀は地元の糀屋さんにご指導依頼したとのこと。味噌や糀から新料理を作ろうと地元の料理研究家にも講師を依頼し、糀から味噌作り、そのアレンジ料理、味噌作りから発展して甘酒作り、スイーツ作りに発展したとのこと。成果としては地元の人とつながり、地元の人が糀屋

まで行って買って来てもらい、自分たちで味噌や甘酒を作るようになったことだと話されていました。受講生はリピーターが多く問題提起していましたが、この事業を通じてこれからも講座を考えていきたいとのことでした。座間市公民館でも味噌作りは行っていますが、受講生の集め方として申し込みは全部受けてなるべく新しい人を優先にして抽選をしていることを話しました。以上です。あとは7分科会よろしくお願いします。

事務局 公民館の存在意義ということで事例発表がありました。群馬県太田市は3町の合併により、平成17年に太田市が施行された。公民館は英語で話すとコミュニティになりますが若干ニュアンスが違う、“KOUMINKAN”なのでそのまま英語で表すのだという話から入り、今座間市も再整備計画を進めていくところではありますが、太田市は行政センターとして公民館事業に追加して住民異動、戸籍の届け出、各種証明書発行など、市長部局として行っているとのことでした。これからの地区公民館は社会教育施設の面ばかりでなく、地域住民の自治中心としての役割はもちろん、より地域に密接した公共施設となっていくことがその存在意義が残っていくのではないかとのことでした。残念なのは公民館運営審議会の機能は無いとのこと。助言者は公益社団法人全国公民館連合会事務局次長村上英己さんで、全国の公民館を良く回っている色々な公民館を知っている方で、その方のお話しが印象に残っています。助言者からは英語で KOUMINKAN に触れ、実は日本の公民館は世界で注目をされている、なぜか、他の国の公民館施設は建物はあるが職員がいない、予算も無いから整備もされない。助言者によると、文部科学省レベルの方たちが20人日本にきて公民館についていろいろと聞かれ、中には「なぜ日本はお金にならないことをしているのか。」という質問があり絶句したと言っていました。もう一つの事例発表は那須塩原市の活動発表で、防犯活動等いろいろな活動をしている中印象に残ったのは大学生を公民館事業に取り入れようと迎えに行ったりしながら5年かけて説得し、今では大学生が学習内容の企画立案の段階から参画してもらい、小学生と大学生が相互に融和を図りながら楽しく学習を進めていて年間12回開催しているとのこと。助言者は頼もしい公民館ですと言っていました。更に助言者の話で3.11 気仙沼のとある公民館の館長は災害の時、1箇月間だけボランティアの方に応援を依頼し、それ以上だと避難者はお客さんになってしまう。なんとか自分の力で自立できるようにした話や、全体会で「学びのカフェ物語」の事例発表をした河内ひとみさんについて助言者は職員一人勤務で事業予算年間10万円という中、平成17年から勤務し、人柄は放っとけないタイプであり、あぶなっかしい人で周りの人が手伝ってあげたくなる感じの人らしく、カフェを始めたいと言えば、現役の時に珈琲豆を引いてお店を出していた人が手を挙げてくれる人が現れたり、いろいろな人が段々と関わり、今では住民の居場所

となっているとのことでした。全国沢山ある公民館が有る中、積極的な行動によって地域も良くなり集う、学ぶ、結ぶ。他の施設には無い大きな機能を果たしている。貸館だけでは得られない、公民館は信頼されている。全国に仲間がいる。横のつながりもある。公民館職員は問い合わせをしてもなぜか親切に教えてくれる。私も厚木市の公民館に問い合わせたらとても親切でした。普段ひとづくりに関わっているからではないかと思います。あとワクワクするような講座をお願いしたい。と言っていました。以上です。

委員長 今再整備計画があるというのはすごく気になります。今後どうなるのか、公民館は公民館として残してほしいという思いはありますが、時代の変化でみんなで考えていきたいと思っています。これで出席された分科会の報告は終わりです。聞いただけではわからないと思いますが、まとめ誌が届きましたらご覧ください。

委員 私は参加できなかったのですが、詳しいご報告ありがとうございました。みなさんの報告を聞いて、3点学んだことがあります。1点は文科省の行政の方ですが、最近の公民館の運営の在り方として地域課題解決だとか次はコミュニケーション、地域活動そういう言葉が多い。公民館は社会教育という観点からみても重要な場だと思うのですが、カオスとか比べるとかそういったところが若干地域課題の観点から追いやられているのではないかという気がします。文科省が言う課題が良く理解できないが、それを誰が中心でやっていくのか、企画の時点から実際の行動へ移すという議論がこれからは大事になっていくだろうと思いました。2点目は数多くの事例発表でやむを得ないとは思いますが、どういう仕組みでどうして実現できたのか、誰がといったことが重要なポイントで、こちらの方が何をやったというよりも参考になる気がします。3点目、公民館の運営・企画に当たっては公民館の関係者だけでは無理だと思います。東地区のあすなろの例で200名くらいの受講生がいますが、実際のあすなろ大学、あすなろ会を動かしているのは、昔から200名全員が動かしている訳ではない。1割にも満たない人たちが牽引者となってやっているのです。その牽引者も段々と年を取っていくと牽引者を育てるという大きな課題となっていく訳です。大事なことは牽引者の育成だと思います。公民館の実際の運営に当たっては市民の中の牽引者と公民館はいかに連携をしてタイアップしてやっていくかが非常に大事で、市民の牽引者による自主的で自発的な活動はものすごく重要だと思います。では若い牽引者をどう育てるか、若い牽引者に仕立て上げるかが最も重要なポイントではないか、まだ課題のレベルですが、東洋大学の大学生とか若いママさん、子育てのグループの方たちとシニアが連携をしてという試みをしてはいますが、まだ牽引者になる部分まで育っていないことは大きな課題です。若い人たちを公民館の運営にどう関わらせるか、若い牽引者の育成大変重要だと思いました。以上3点勝手な思いで

す。

委員長 難しいですね。公民館の活動に関して言えば、公民館の魅力的な講座をきっかけに取り込んでいければね。公民館の企画したものに来るとい形が多い。うまく合えばそこから先やっていこうと言う人が出てくることもあるかもしれない。

委員 サマーアイランドで言いますと、委員長をやった中学生は、小学生の時から関わっていた子で、それを育てたのが大人のボランティアの人でした。毎年行っているため、大人のボランティアは変わらないです。街で会っても声掛けしたり、またアイランドがあるから来てねとか、私も声掛けますし、そういうつながりで小学生から高校生まで来ています。

委員 やはり自主的とか自発的というのはすごく重要ですね。上から押し付けられたものって抵抗します。

委員長 私は遊友クラブにずっと関わっていて、子どもの中には大人の手伝いをしたい子が出て来て、どんどんやってもらいましたが、そういう子はリーダーシップをずっと持って大きくなります。

では、次第 3 事業評価ということで、座間市公民館お願いします。

事務局 公民館の事業評価シートと笑いヨガのチラシをご覧ください。「暮らしと健康講座」ということで“元気の源笑いヨガ”を行いました。車椅子の方でも参加できる講座で高齢者向けのため、平日の午前中に行いました。6月28日朝10時から11時30分3階集会室で行いました。普段動かさないところを動かしたり、腹式呼吸を取り入れ、受講者からはその日良く眠れたという声がありました。すごく楽しい講座でアンケート結果も載せているので目を通していただければと思います。一つ紹介します。テレビで笑いヨガを知り、ずっとやりたいと思っていました。インターネットで調べると遠い場所ばかりであきらめていましたが、今回広報で知り申し込みました。楽しくあつという間に時間が過ぎてしまいました。日常生活に笑いを取り入れたいという感想がありました。事業の評価としては、なかなか運動ができない高齢者にもやさしい笑いヨガは、知らず知らずに全身運動していることが素晴らしいと思った。参加者からは体が軽くなった、気分が明るくなった等喜びの声がたくさん聞けた。来年度もぜひ企画したいです。人数は60名定員でしたが、30名前後でちょうど良かったというコメントがあり、次回は40名にしようと思います。講師が40代の方で明るい方でした。みなさん満足していました。あとは公運審の方からお願いします。

委員長 当日、東地区の公運審の方も参加していただきました。事業評価としては、結構良い評価です。33名参加して会場の広さに対し、少し動き回るのちょうど良い人数だったと思う。アンケートの結果からもわかるとおり、充分満足できたと思う。受講された方は平均70代であることから適度の内容であった。ちょっと汗をかくくらいの運動で、きつくはないです。企

画内容としては、会場が笑顔いっぱいになる1時間半だった。評価高いです。たくさん笑い、体を動かし、伸ばし、健康づくりにつながった。一日だけでは無理かなとは思いますが、家庭に戻っても簡単にできる内容だった。目的は達成できたと思う。半年に1回は行ってほしい。最終的な評価はAで「このまま継続して良い」のAです。笑うということで誰もが明るい気持ちになり、最近凶悪なニュースが続いている中、受講した1時間半だけでも穏やかな気分になった。こういう社会を作っていくのも公民館事業であるのかなと思う。アンケートで「何でこの講座を知りましたか」について広報ざまとチラシの効果が大半を示していたのが良かった。ぜひ2度目の講座を待っています。

事務局 半年に1回ということだったので、早速依頼し、12月13日に2回目を行う予定です。

委員長 以上で事業評価終わりました。あと連絡事項等あれば事務局お願いします。

事務局 11月8日ハーモニーホール座間で午後1時半から研修があります。出欠を報告しますので教えてください。

委員長 引き続き4番目の協議事項に入ります。関東甲信越静公民館研究大会が来年度は千葉県で開催ということで、事務局お願いします。

事務局 船橋市民文化ホールというところで来年11月19日(木)、20日(金)行います。時間が19日12時から17時、次の日が分科会で朝9時から12時になります。市からマイクロバスを借りて行こうと思っていますが、宿泊しますか、それとも2日間通いで行きますか。

委員長 朝9時からの場合は何時に出ればいいのかね。

委員 6時とかですかね。

委員長 連日通うよりも宿泊させていただいた方が助かると個人的な思いですがみなさんどうですか。

委員 賛成です。

委員長 では公運審の希望としては宿泊をお願いします。では次、公運審から図書館協議会の委員として公運審から出ていますので報告がありましたらお願いします。

委員 昨年度から図書館協議会の委員となりました。最初の1年間は私も図書館のことはわからない状態で勉強している1年間でした。今年は図書館長が変わりまして7月31日に1回目の会議がありました。事業経過報告と令和元年予算について、図書館事業計画、図書館協議会開催計画案についての議題です。2年目に入りますが、図書に関係する場所に施設見学があるとか、まだ具体的には決まっておりません。以上です。

委員長 他に連絡事項ありますか。

事務局 来年1月17日神奈川県公民館大会が愛川町文化会館ホールで行

います。マイクロバスで行きますので、集合時間等は追って連絡いたします。

委員長 他になければ終了させていただきます。お疲れ様でした。